

タイトル	2022 年度学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教専専攻 小論文問題
評価の ポイント	<p>最近、よく使われるようになった「親ガチャ」という言葉を通じた若者論を素材とした問題である。筆者は、親ガチャが、否定的な意味合いだけでなく、肯定的な意味合いも持つ言葉であることを指摘したうえで、今の若者のなかで、「人生は生得的な資質や属性によって規定される」と考える者が多くなっていると述べている。</p> <p>この論考をもとに、以下の点を重視し、総合的な思考力、表現力の面から評価を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下線部に示された筆者の認識を適切に理解しているか。 ・ 筆者の認識に対する当否を、自分の経験をもとに論じているか。 ・ 教師の立場から、「人生は生得的な資質や属性によって規定されると考える」ような子どもに対して学習の意義を伝える場合、どのような方途によって行うかについて論じているか。「人生は生得的な資質や属性によって規定される」とするならば、学習に取り組んだところで人生の条件が向上するわけでもないし、逆に低下するわけでもないということになる。だとすれば、「将来の夢の実現のために勉強を頑張ろう」といった働きかけは、有効に機能しない。そのような子どもに対して、「それでも学習には意義がある」ということをどのように伝えられるかについて、内容の独創性や論理的な説得性などの観点で評価を行った。 ・ 原稿用紙の使い方、誤字脱字、文のねじれなど表現の形式面で問題がないか。 <p>【出典】土井隆義「若者言葉『親ガチャ』 生得的資質 人生を規定」『北海道新聞』2021年7月1日朝刊</p> <p>【回答例】</p> <p>(1)筆者の認識について、私は賛同する。私の高校の同級生にも、「どうせ自分は運動神経の悪い家系に生まれたから、スポーツを頑張っても無駄だ」ということを話す者がいる。私自身も両親に様々な経験をさせてもらい、よい「親ガチャ」の結果を享受しているのかもしれない。家庭環境や遺伝的性質を生まれてくる本人が選択できないのは事実であり、それを「ガチャ」と表現する若者がいること自体は、不思議なことではないと思う。一方で、例えば、「親ガチャ」の結果のみで人生がすべて決まるという考えの若者がいるとしたら、それは極端すぎる考えだと思う。ゲームにおける「ガチャ」には、「当たり」「はずれ」があるだろう。しかし、少なくとも、私のプレイしたことのあるゲームでは、たとえガチャの結果が、外れでも、挽回するチャンスが与えられているものが多かった。人生における「親ガチャ」などの「ガチャ」においても、挽回するチャンスはあるのではないかと思う。</p> <p>(2)私が下線部のような子供を教師として受け持つことになったら、「ガチャ」に外れても、努力して学習をすることで挽回するチャンスはある、ということ</p>

子供に伝えたいと思う。「人生は生得的な資質や属性によって規定される」ことは、完全には否定できない。しかし、適切な努力をすれば、今の自分自身よりは、どこかに成長できる点があるはずである。小さな学習成果の積み重ねが、少しずつでも、人生を望む方向に変えることにつながる可能性があるとして伝えたい。ただし、下線部のような子供は、自身の成長を諦めてしまっていて、自身の成長に自分自身で気づけない可能性もあるだろう。また、適切な学習方法がわからず、「どう努力してよいかわからない」という可能性もある。私が教師になったら、適切な学習方法を伝え、成果がすぐに出なくとも、努力をほめ励ますことで、子供の成長を支えられるようでありたい。(782文字)